

ハルモニたちに会ってきました

2017年6月

花房恵美子

6月の8日から12日まで韓国に行ってきました。

義弟夫婦と4人の旅で、初訪韓の義弟は歴史好きで慶州に一番行きたく、私たちは関釜裁判原告ハルモニのお見舞いと墓参りが目的で、二つの目的を合体させた旅となり、釜山、慶州、天安の望郷の丘、水原の民俗村、ソウルとまわりました。(義弟夫婦は関釜裁判を支援する会の会員でした)

旅の大きな目的の釜山の柳賛伊さんは、前に「行く」と電話した時、「病気で体調が悪く、きてもらっても何もしてあげられない」と、全く元気がなかったのですが、とにかく顔だけでも見たいから行くと言って、8日と10日2回、会ってきました。

会うと、本当に昨年のお会いした時とは明らかに違い、歯はほとんど抜けて入れ歯もしていないのでおかゆしか食べられないし、背中が痛くてたまらないと嘆いておられました。

電話で何を持ってきてほしいか聞いていたのでサロンパスを渡すと、すぐ貼ってくれとのこと、背骨を中心に8枚くらい貼って話をしていました。

帰りには、サロンパスが効いてきて痛みがなくなったと喜んでおられました。添付の写真はその時のものです。でももう病院の1階のロビーには降りることができず、病室のある5階の談話空間に歩行器を使って移動するのがやっとでした。

朴順福さんも娘さんからハルモニは体調が悪いし、認知症が進んでもう人を見分けられないから、面会は遠慮してほしいと言われていたのですが、一目会うだけでいいのでとM君を通して頼んでいたところ、「集中治療室にいるので、家族と一緒にないと中に入れない」とのこと、娘さんが病院に行く日時に合わせて旅行日程を変更して10日午前11時に病院に行きました。

鼻から流動食を取っておられてお話しすることはできませんでしたが、私たちを見ると目を輝かせて見てくださったので、誰なのか認識してもらったようです。昨年春に股関節骨折をして、寝たきりだったので、娘さんが仕事しながら必死に看病なさっていましたが、床ずれがひどくなり10センチもあり、肺炎もおこし、集中治療室に移った時に医者から後2~3カ月だと言われたそうです。今はかなり回復して傷は3センチくらいになったそうで、ハルモニのお顔の血色はよく、手も暖かく生命力

を感じました。しかし、半年あまりでお二人の病状がここまで進んでいるのは、覚悟していたとはいえ胸に迫るものがありました。これからの一年一年は何が起こるか分からない厳しい時間になりそうだと思います。

翌日、慶州から天安に行き、望郷の丘に眠っておられる李順徳さんに挨拶をしに行きました。望郷の丘の事務室の詳しい方がおられず、あの広い霊園をタクシーで探し回り、やっと見つけたのが添付の写真で、納骨堂に安置されていました。連れ合いは懸命に探してくれたタクシーの運転手さんと抱き合って喜んでいました。お墓はまだできていないそうです。

お別れの挨拶が遅くなったこと、たくさんの日本の方もハルモニのことを偲んでいると報告しました。日曜日なのに墓参の方も一組しかみかけず、静かで穏やかで、あー安らかに眠っていच्छやると思ったものです。

帰国してから何度も思い出すのは、柳賛伊さんとお別れする時のエレベータのドアが閉まるまで涙を浮かべて私たちをじっと見つめてくださっていたハルモニのお顔。鼻にチューブを付けられながら私たちを見送ってくださった朴順福さんのキラキラと輝く目。李順徳さんの眠る望郷の丘の青い空と暖かくも爽やかな風。各所で心から親切にいただき、私たちの珍道中を助けてくださった市民の方々。感謝の気持ちでいっぱいです。

